



カツオのまぐろ

かわいいカツオのまぐろのきいろいしるし



カツオが およぐ。カツオが およぐ。



そのなかにいる きいろいしるしが
ついているのが ボニートだ。

ボニートは、このカッコいい
きいろい しるしが おきにいらだった。





きいろいしるしは、わかくて つよくて
いきのいいカツオにしか つけられないのよ、と
カツオドリのガネットが いていたのだ。

でも、

なんのために ついでているのか？

ほかに しるしが ついでているカツオは いないのか？

ボニートは しりたくなって、
たびにでることにした。

An illustration of an underwater scene. In the foreground, a blue and white striped fish with a yellow dorsal fin is swimming towards the right. To its right, a pink squid with large eyes and tentacles is swimming towards the left. The background features dark blue and purple rocky terrain with various colorful sea anemones and starfish. The water is a light blue color.

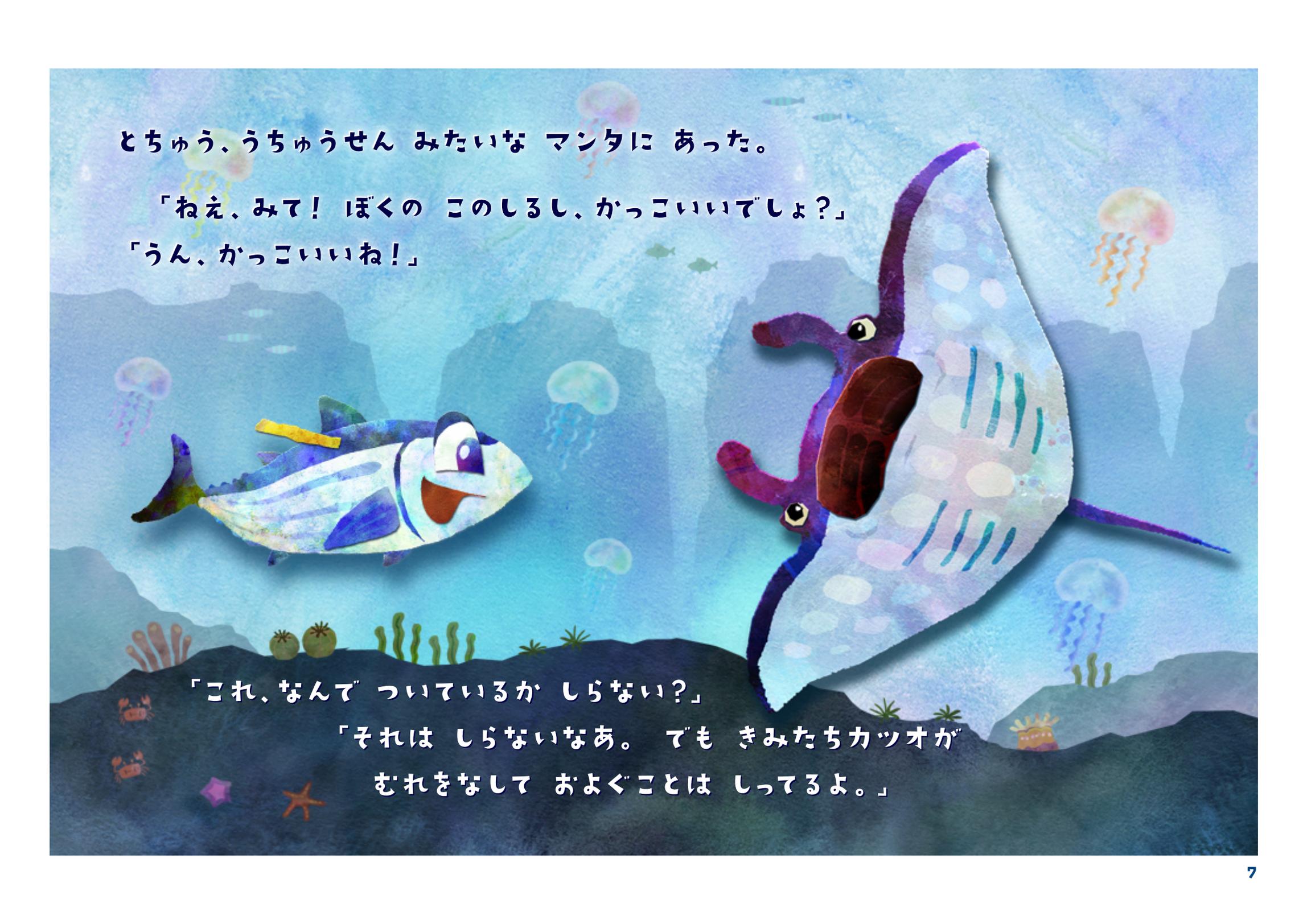
とちゅう、ゆらゆら カーテンみたいな イカに あった。

「ねえ、みて！ ぼくの このしるし、かっこいいでしょ？」

「うん、かっこいいね！」

「これ、なんで ついてるか しらない？」

「それは しらないなあ。 でも きみたちカツオが
ぼくたちイカを たべることは しってるよ。」

An illustration of an underwater scene. On the left, a colorful striped fish with a yellow stripe on its back and a purple stripe on its side is swimming towards the right. On the right, a large purple manta ray with a white belly and blue stripes is swimming towards the left. The background is a blue ocean with various sea creatures like jellyfish, small fish, and coral on the seabed.

とちゅう、うちゅうせん みたいな マンタに あった。

「ねえ、みて! ぼくの このしるし、かっこいいでしょ?」

「うん、かっこいいね!」

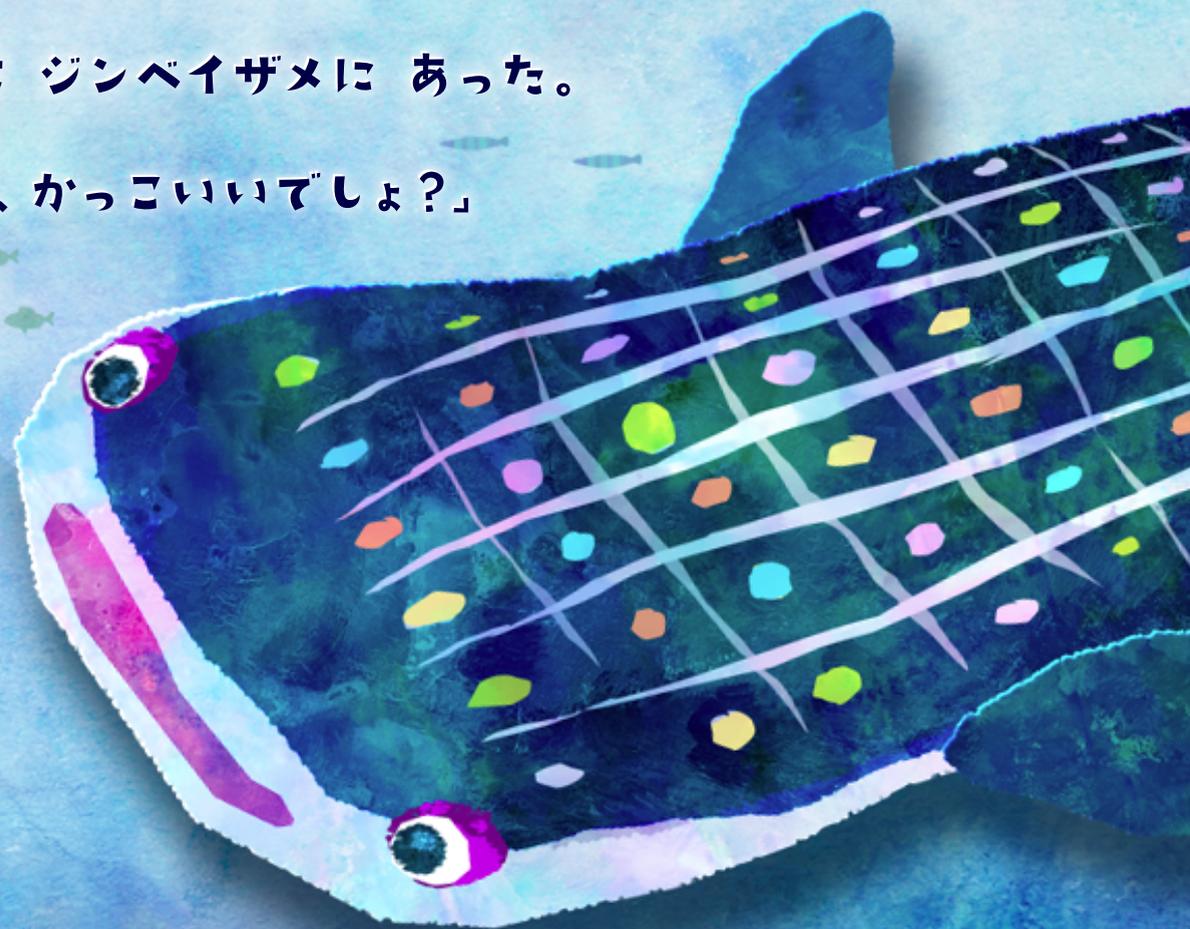
「これ、なんで ついてるか しらない?」

「それは しらないなあ。 でも きみたちカツオが
むれをなして およぐことは してるよ。」

とちゅう、おおきな ふとん みたいな ジンベイザメに あった。

「ねえ、みて！ ぼくの このしるし、かっこいいでしょ？」

「うん、かっこいいね！」



「これ、なんで ついてるか しらない？」

「それは しらないなあ。 でも きみたちカツオが

よく わたしたちのまわりで およんでいることは しってるよ。」

「なあんだ、いがいに みんな、

このしるしのこと、知らないんだなあ。 カッコいいのに。」

そうつぶやきながら、ボニートが およいでいると、

キラキラひかる むこうの うみに カツオのむれがみえた。

そのせんとうき およぐのは、

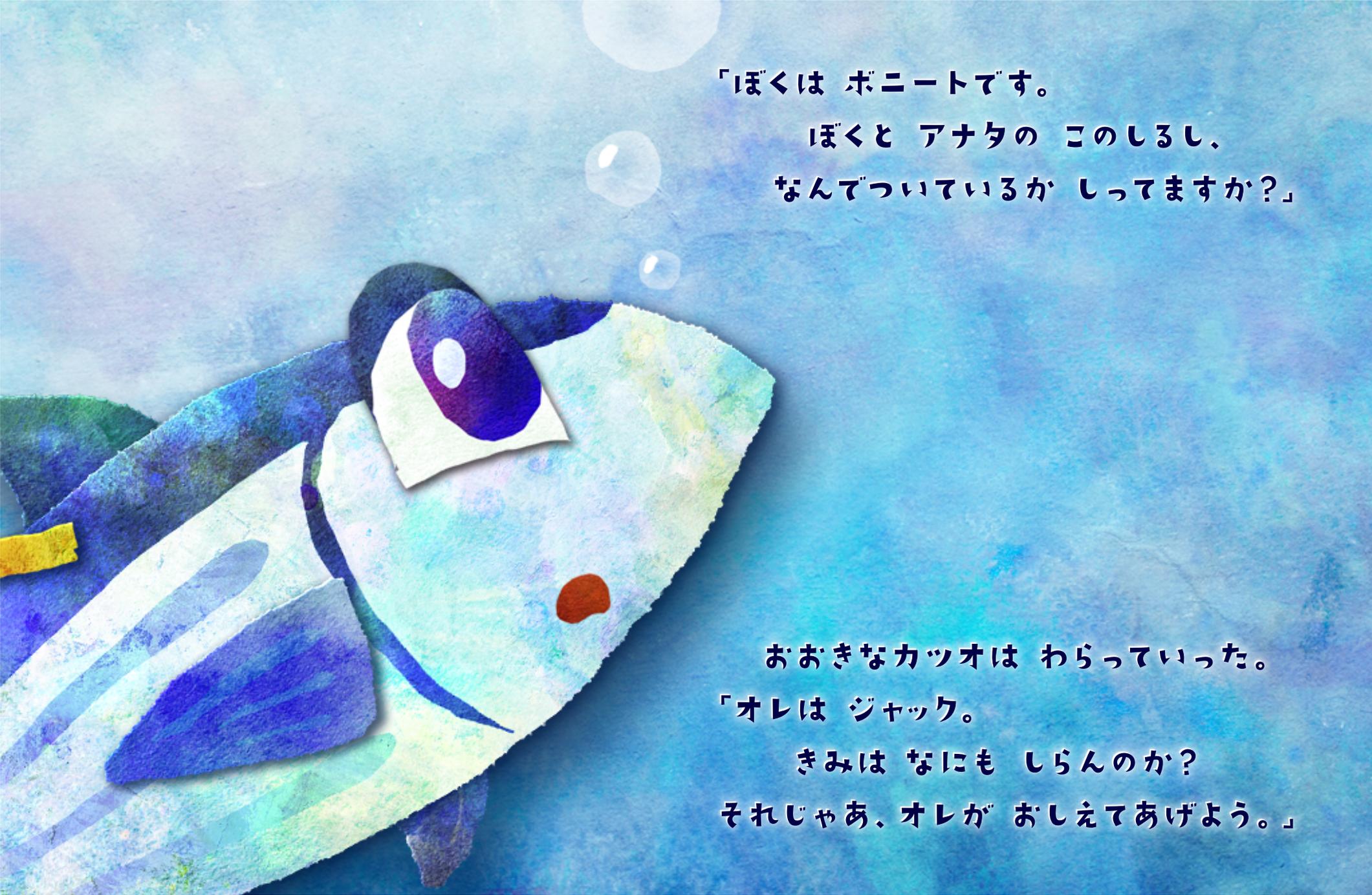
きいろいしるしのついた カツオじゃないか!

ボニートは ぜんそくりょくて ちかづいた。



きいろいしるしき つけたカツオは
ボニートと おなじくらい イキがよくて
そして なによりも おおきかった。





「ぼくは ボニートです。

ぼくと アナタの このしるし、
なんでついているか 知ってますか？」

おおきなカツオは わらっていった。

「オレは ジャック。

きみは なにも しらんのか？

それじゃあ、オレが おしえてあげよう。」

オレたち カッコオは にんぎの サカナ。

なぜって、にんげんたちの ごはんには
オレたちから つくられた

「だし」が かかせないんだ。



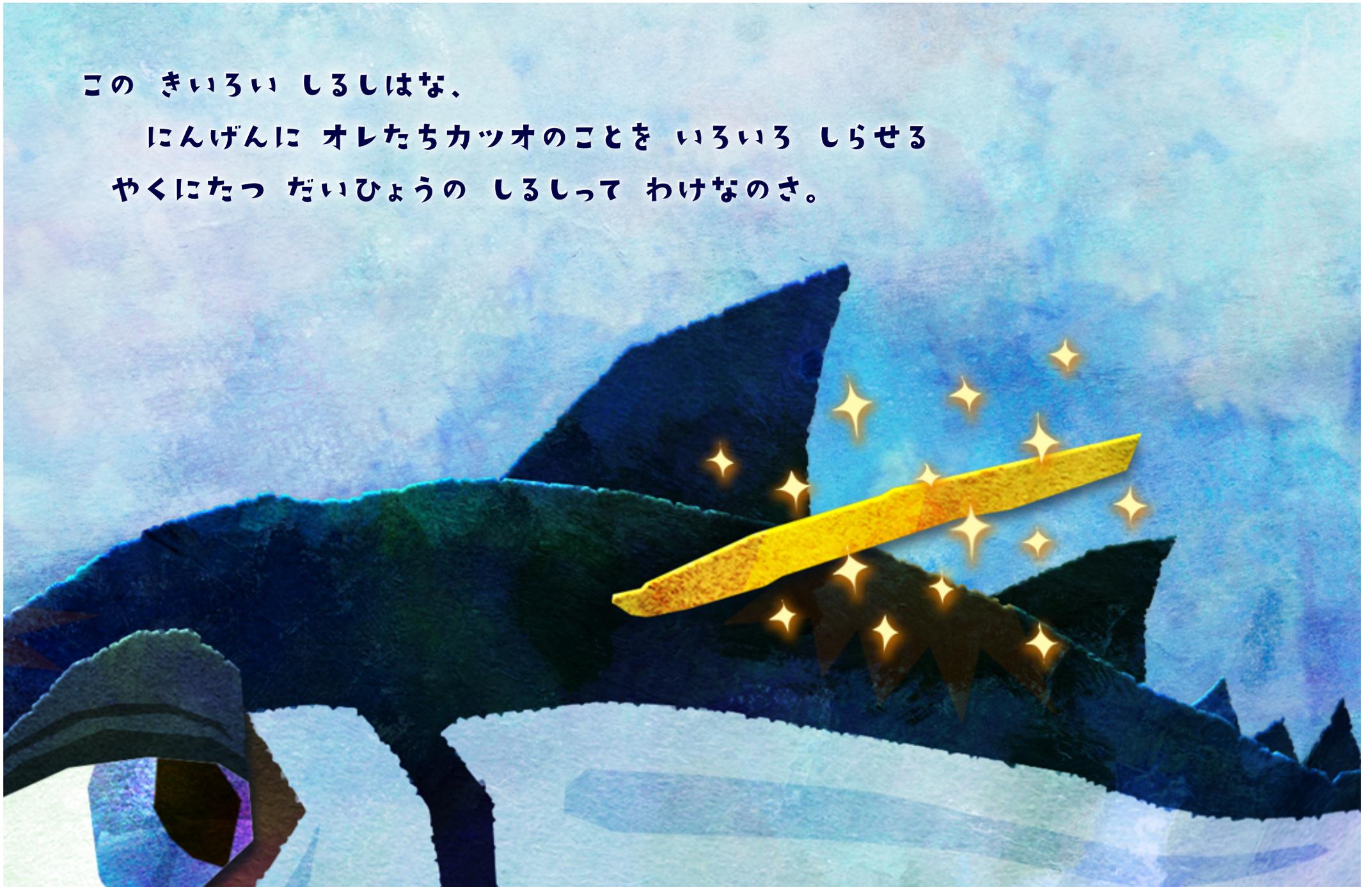


だけども なぜだか にんげんは
オレたちのことを よくわかっていないらしい。
「ナゾのおおい サカナ」なんて 知っている。

だから ぐらしに ひつような「だし」を
つくりつづけるために、
いろいろ しらべたいと おもってるのさ。

この きいろい しるしはな、

にんげんに オレたちカツオのことを いろいろ しらせる
やくにたつ だいひょうの しるしって わけなのさ。





ボニートは おどろいた。

この きいろいしるしに そんな いみがあったなんて!

ボニートは なんだか とっても うれしくなって、
「ありがとう！ おしえてくれて、ありがとう！」
そうさけぶと うみのなかを ぎゅんぎゅん、およいだ。





それをみた ものしりの ジャックも いっしょになって
ぎゅんぎゅん、およいで、ばちばち、はねた。

